

平成 30 年度医療事業部第 4 回研修会(報告)

主 催 (公社) 熊本県栄養士会 医療事業部事業部

日 時 平成 31 年 2 月 16 日 (土) 10 : 00 ~ 15 : 45

会 場 名 公益財団法人 熊本県総合保健センター 大研修室

◇『ガラパゴス化する日本の HPV ワクチン、そして増加する子宮頸癌』

講師: 熊本大学大学院生命科学研究部 産科婦人科学分野教授 片渕 秀隆 先生

午前中は、以前にもご講義いただいた熊本大学の片渕先生の講義でした。

日本における子宮頸癌の罹患・死亡の現状として、毎年1万人以上の女性が発症し、約3千人が死亡。中でも 20~30 歳代での罹患率が増加し、それは先進国の中で日本だけという現状。にもかかわらず、子宮頸癌発症の大きなリスクとされている HPV 感染を予防するワクチンの接種が、日本では副反応と疑われる不幸な事例以降、国の政策として勧奨されなくなってしまい世界に取り残されている状況(ガラパゴス化)であること。ワクチン接種と子宮頸癌検診の二本立てが世界のコンセンサスであること、等多くのデータをもとに詳しくご講義いただきました。医療に携わる者として科学的根拠に基づいた知識と最新の情報を伝えることの重要性を片渕先生の熱意あふれる講義で改めて認識しました。

また質疑応答では、中高生の子女をもつ会員からのワクチン接種の当事者としての質問等も熱心にありました。医療人として、女性として、また現在や未来に母となる立場としてもとても関心の高い講義でした。片渕先生ありがとうございました。



◇ミニ学会

司会 くまもと森都病院 西本 初江

① 『脳出血患者の経管栄養管理に関する管理栄養士病棟常駐の効果』

済生会熊本病院 高尾 朋美

② 『被災糖尿病患者に対し早期に実施した栄養指導の有用性について』

熊本大学医学部附属病院 得能 香菜子

③ 『糖尿病食事療法における減塩指導の効果』

済生会熊本病院 田中 郁代

④ 『高齢維持透析患者におけるサルコペニアについての検討』

あけぼのクリニック 北岡 康江

⑤ 『排便に良いとされる食品の組み合わせが 排便状況の改善に寄与したと考えられる症例』

独立行政法人菊池病院 加来 正之

⑥ 『緩和ケアに移行した癌患者の在宅における栄養支援ニーズ』

合志第一病院 佐藤 由紀

午後のミニ学会は6人の先生方の発表がありました。

管理栄養士の病棟常駐という最先端に行く内容や日々の栄養指導等での実践の積み上げをデータとした発表、緩和ケアにおける在宅支援まで、医療といっても幅広く、さまざまな関わりの成果をまとめられた内容の発表となりました。

質疑、応答も活発に行われ、盛会に終わりました。

